

# 第22回下田歌子賞

せんじんけんしょうじぎょう  
先人顕彰事業

募集テーマ

こころざし  
志

いま 未来  
～今と未来を生きる「あなた」のために～

みなさんは、どんな未来を思い描いていますか？

どんな志を持ち、今を生き、明日を生きようとしていますか？

あなた自身のこと、家族や友達のこと、地域のこと、明日の世界や日本、地球や人類のこと…。

「志 ～今と未来を生きる「あなた」のために～」をテーマに、エッセイと短歌を募集します。

## エッセイの部

ぼく・わたしが思い描く未来のために、頑張っていること、強い決意や信念などを  
書いて、応募ください。応募できるのはひとり1作品です。

<小学生の部>

800字程度(400字詰原稿用紙2枚程度)

<中学生・高校生の部>

1,200字程度(400字詰原稿用紙3枚程度)

応募作品の中から、小学生の部、中学生・高校生の部ごとに以下の賞を選びます。

さいゆうしゆうしょう べん  
🏆 最優秀賞・・・1 編  
ゆうしゆうしょう べん  
🏆 優秀賞・・・3 編  
どうもんふゆじとくべつしょう べん  
🏆 童門冬二特別賞・・・1 編  
かさく へん  
🏆 佳作・・・5 編

おうめいきょうぎかいしょう とく どりよく ひょうか ひょうしょう  
◆ 嚶鳴協議会賞・・・特に努力が評価できる作品を表彰  
がっこうしょう おうぼ がっこう ひょうしょう  
◆ 学校賞・・・作品をたくさん応募いただいた学校を表彰

じゅしょう しょうじょう としよ おく  
受賞された10名には賞状と、図書カードを贈ります

## 短歌の部

募集テーマから思い浮かぶことを、5・7・5・7・7の31文字にぎゅっとつめて短歌をつくってみましょう。  
応募できるのはひとり1首です。

応募作品の中から、小学生の部、中学生・高校生の部ごとに以下の賞を選びます。

さいゆうしゆうしょう  
🏆 最優秀賞・・・1 首  
ゆうしゆうしょう  
🏆 優秀賞・・・1 首  
にゆうせん  
🏆 入選・・・3 首

がっこうしょう おうぼ がっこう ひょうしょう  
◆ 学校賞・・・作品をたくさん応募いただいた学校を表彰

じゅしょう しょうじょう としよ おく  
受賞された5名には賞状と、図書カードを贈ります

おうぼしめきり  
応募締切

令和6年9月5日(木曜日)

## ◎応募の方法

・作品の題名(エッセイのみ)、名前、学校名、学年、性別、住所、電話番号、下田歌子賞の募集を何で知ったかを書いた用紙を付けて応募してください。

・小学生・中学生の皆さんは学校の先生が説明された方法で応募してください。

## ※応募の注意

・応募いただいた作品はお返ししません。

・入選した作品は市のホームページや作品集で発表します。

・応募されたみなさんの名前や住所は個人情報として、市が責任を持って守り、他のことには利用しません。

## ◎発表・表彰式

・令和6年12月21日(土曜日) 岩村コミュニティセンター(岐阜県恵那市)で行う予定です。

※エッセイの部各部最優秀賞者には、表彰式にてご自身の作品を朗読により発表いただきます。

## ◎選考委員

よしだ こうへい (東洋大学名誉教授) かつかぜ みどり (元宝塚歌劇団・恵那観光大使)

なんば まさのり (実践女子大学・実践女子大学短期大学部学長)

てらだ しょういち (PHP 研究所・月刊誌「歴史街道」特別編集委員) こさか たかね (恵那市長)

保護者の皆様へ

下田歌子賞は、平成16年(2004年)の下田歌子先生の生誕150年を迎えるにあたり、旧岩村町(現、恵那市岩村町)と実践女子学園との共催で始まった公募賞です。毎年テーマを決めてエッセイを募集し、全国から多くの作品をお寄せいただいています。第8回からは短歌の募集も加わり、第22回を迎える今年は、「志」をテーマにしたエッセイと短歌を募集します。

恵那市では、先人顕彰事業として、下田歌子先生をはじめ、佐藤一斎先生や三好学先生、山本芳翠先生などふるさとの先人の教えや生き方を尊重し、現代の自分たちに活かす取り組みに力を入れています。下田歌子先生は、苦しい生活を乗り越えて勉学に励み、そして、身分に関係なく、女性に教育と働く技術を身につける機会を与えました。まず、下田歌子先生について知っていただき、お子さんに「昔、恵那で生まれた人にこんな人がいたんだよ。」と是非伝えてあげてください。下田歌子賞がそのきっかけとなれば、それに勝る喜びはありません。

主催 恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」実行委員会、学校法人実践女子学園、岐阜県恵那市、恵那市教育委員会

共催 株式会社 PHP 研究所

後援 岐阜県教育委員会、多治見市教育委員会、土岐市教育委員会、瑞浪市教育委員会、中津川市教育委員会、東京都日野市、日野市教育委員会、嚶鳴協議会(恵那市、大野町、沖縄市、小田原市、釜石市、木曾町、高鍋市、多久市、東海市、養父市、米沢市)

下田歌子賞についてのお問い合わせはこちらへ

〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家1-1-1 恵那市教育委員会 社会教育課 「下田歌子賞」係  
電話 0573-26-6853

インターネットで詳細をご覧ください。

第22回下田歌子賞

検索



# 下田歌子先生ってどんなひと？

下田歌子先生は今から168年前、江戸時代の安政元年（西暦1854年）に、美濃国岩村藩（今の岐阜県恵那市岩村町）で生まれました。名前は平尾鉏といいました。それから82歳で亡くなるまで、宮中（天皇や皇后がすんでいるところ）ではたらいたり、先生になって勉強を教えたり、イギリスに行って勉強をしたり、自分で学校をつくって校長先生になったりしました。

それでは、下田歌子先生の活躍をいくつか紹介します。

## ◇子どもの頃 ～岩村ですごす～

小さなころから勉強好きだった歌子先生は、おばあさんから厳しく勉強を教えてもらいました。とにかく本をよく読み、7歳のころには、俳句や和歌、漢詩を読んだりつくったりしました。

また、お侍だったお父さんは勤め先の藩から何度も自宅謹慎を言いつけられたり、城に閉じ込められたりしてお給料が出なかったため、歌子先生の家はとてもまずしい暮らしでした。



岩村城址公園内にある  
下田歌子勉学所

## ◇16歳 ～東京へ旅立つ～

明治時代になり、新しい政府になるとお父さんは東京で仕事につきます。16歳になった歌子先生もあとを追って、東京へ行くことになりました。これまで住んでいた岩村を離れ、三国山という山を越えるときに、次のような短歌をよんでいます。

綾錦 着てかえらずば 三国山  
またふたびは 越えどぞ思ふ

（わたしは立派な人にならなければ、この三国山を  
ふたたび越えて、故郷の岩村には帰りません。）



下田歌子肖像写真  
(実践女子大学図書館所蔵)

## ◇「歌子」という名前 ～宮中ではたらく～

東京で暮らしはじめた歌子先生は、宮中（天皇や皇后がすんでいるところ）ではたらくことになりました。短歌をよむことが大変上手だったため皇后（明治天皇の奥さん）から「これからは【歌子】と名乗りなさい」と言われ、それから「歌子」と名乗るようになりました。いつも皇后のおそばでがんばってはたらきました。

## ◇女の子に教育を ～実践女学校をつくる～

宮中でのお仕事をやめた後の歌子先生は、女子の教育のために一生けんめいがんばります。

そのころの時代、女の子が学校へ行って勉強することは、今みたいにあたり前ではありませんでした。イギリスに勉強に行き、身分に関係なく、女の子も男の子と同じ勉強をしているところを見た歌子先生は、日本に戻ってから実践女学校という学校をつくりました。そこでは身分に関係なく、多くの女の子が勉強でき、また、女の子も仕事を持ってはたらくことができるよう技術も教えました。

70歳を過ぎても教壇に立ち、なんと、多いときには5つの学校の校長先生をしていました。

## 歌子先生アイデア ～生徒たちに大人気～

### 日本初の制服

女の子でもはきやすい袴を考え、日本初の制服となりました。現在でも、大学生のお姉さんが卒業式に着ていますね。

### 机といす

いろいろなサイズの机といすを揃え、生徒の体の大きさにあった机といすを選べるようにしました。そうしたことで、勉強がしやすくなりました。

### 女の子に体育

女の子に体育なんて必要ないという時代に、体育の授業を始めました。教育には知育・徳育・体育が大事ですね。

### 学生の髪型

髪をととのえるのに時間がかかる女の子のために、簡単にセットできる髪型を考えました。これでいそがしい朝も安心ですね。

さあ、下田歌子先生はどんな人でしたか？大きな目標にむかう強い気持ちがあったから、苦労があってもあきらめず、こんなにもがんばれたのですね。